

### 3. 子どもの貧困問題への合意形成の壁

#### 日本人の貧困観：「貧困な」貧困観

表2 あなたは、もしも人々が以下のような状況にある場合、それを「貧困にある人々」と考えますか  
(単位：人、%)

質問項目	対象	はい	いいえ	わからない	無回答	合計
ホームレスとして路上生活をしている	公務員	218 (51.7)	145 (34.4)	57 (13.5)	2 (0.5)	422 (100.0)
	民間企業	185 (42.8)	162 (37.5)	78 (18.1)	7 (1.6)	432 (100.0)
1年以上失業状態で生活している	公務員	145 (34.4)	188 (44.5)	86 (20.4)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	130 (30.1)	221 (51.2)	76 (17.6)	5 (1.2)	432 (100.0)
生活保護で生活している	公務員	131 (31.0)	236 (55.9)	52 (12.3)	3 (0.7)	422 (100.0)
	民間企業	105 (24.3)	252 (58.3)	65 (15.0)	10 (2.3)	432 (100.0)

出典：青木紀「現代日本の「貧困観」に関するアンケート結果報告(2)」教育福祉研究 = Journal of Education and Social Work, 12: 71-122 より抜粋

#### 家族依存の福祉観：生活保護パッシングと生活保護受給者への「誤解」

ある自治体の生活保護廃止世帯(2005年度)の調査結果からの検討

開始時の世帯主の学歴(世帯類型別・男女別)(2005年度, A自治体)

		(N=492)					
	(N)	中卒	高校中退	高卒	短大卒	大卒	不詳
全世帯	482	53.5%	12.0%	30.7%	1.0%	0.8%	1.9%
女性	254	46.5%	12.2%	38.2%	0.4%	0.8%	2.0%
男性	228	61.4%	11.8%	22.4%	1.8%	0.9%	1.8%
高齢者世帯	64	57.8%	3.1%	21.9%	3.1%	1.6%	12.5%
女性	35	54.3%	-	25.7%	2.9%	2.9%	14.3%
男性	29	62.1%	6.9%	17.2%	3.4%	-	10.3%
母子世帯	123	34.1%	14.6%	50.4%	-	0.8%	-
女性	123	34.1%	14.6%	50.4%	-	0.8%	-
男性	-	-	-	-	-	-	-
障害者世帯	16	62.5%	18.8%	18.8%	-	-	-
女性	1	100.0%	-	-	-	-	-
男性	15	60.0%	20.0%	20.0%	-	-	-
傷病者世帯	202	60.4%	12.9%	24.8%	0.5%	1.0%	0.5%
女性	57	61.4%	12.3%	26.3%	-	-	-
男性	145	60.0%	13.1%	24.1%	0.7%	1.4%	0.7%
その他世帯	77	61.0%	11.7%	24.7%	2.6%	-	-
女性	38	55.3%	15.8%	28.9%	-	-	-
男性	39	66.7%	7.7%	20.5%	5.1%	-	-

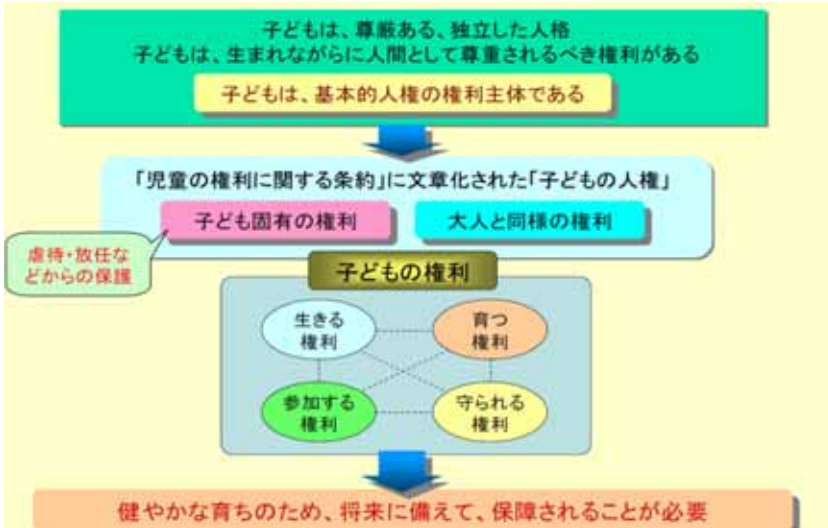
出典：湯澤直美・藤原千沙「生活保護世帯の世帯構造と個人指標」『社会福祉学』50巻1号、2009年

#### 4. 求められる「子どもの貧困」への社会的対応

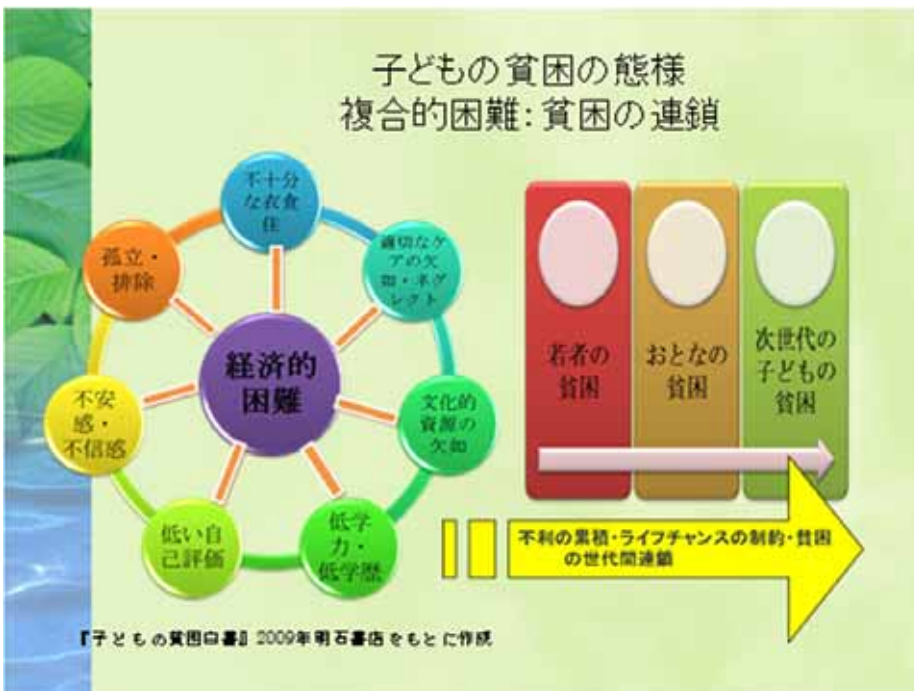
子どもの権利条約と「子どもの貧困」

2007年国連総会：子どもの貧困の強力な定義を採択

「子どもたちが経験する貧困の特殊さにかんがみ、子どもの貧困とは、単にお金がないというだけでなく、子どもの権利条約に明記されているすべての権利の否定と考えられる」



[http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/dbps\\_data/\\_material\\_/localhost/sosiki/046/joureino.pdf](http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/dbps_data/_material_/localhost/sosiki/046/joureino.pdf) (尼崎市)



貧困問題は、公正な社会の実現のための試金石

貧困問題は、「どこかにある」「誰かの問題」なのではない

東日本大震災と「子どもの貧困」

リスク社会

「近代が発展するにつれ富の社会的生産と平行して危険が社会的に再生産されるようになる」

ウイリヒ・ベック著 / 東廉、伊藤美登里訳『危険社会 新しい近代への道』法政大学出版局、1998

# 子どもの貧困対策・自治体セミナー

2013年

12/14(土)

開場：12時30分より受付開始

開催時刻：13時～16時30分（予定）

会場：お茶の水女子大学共通講義棟1号館301

資料代：500円（可能な方より、学生無料）

定員：80名（**事前申し込みが必要です**）

## お申し込み方法

参加ご希望の方は、件名に【自治体セミナー申し込み】と明記の上、

①お名前 ②お立場・ご所属 ③お住まいの都道府県 ④電話番号

をご記入いただき12月12日（木）までに、下記のアドレス宛にお申し込みください。

<mail@end-childpoverty.jp>

※お問い合わせ・当日連絡先：TEL 070-6576-3495

Email mail@end-childpoverty.jp

2013年6月に「子どもの貧困対策推進法」が成立しました。この法律には、政府が子どもの貧困対策をすすめる責務とともに、都道府県においても「子どもの貧困対策計画」を定めて施策を実施する規定が盛り込まれました。私たちの身近な地域で、子どもの貧困問題の解決に向けた取り組みが広がることを期待されます。

そこで、今回のセミナーでは行政関係者のかたを講師に迎え、先進実践例をもつ複数の自治体（民間との連携を含む）の報告をもとに、情報共有と意見交換を行います。自治体関係者・市民のみなさんご参加をお待ちしております。



主催：「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク

## プログラム

### 開会挨拶

#### 報告1 「あだち・ほっとほーむ事業について」

富山耕生さん（東京・足立区教育委員会子ども家庭部こども支援センターげんき北地区支援係・相談員）

足立区で実施されている「あだち・ほっとほーむ事業」は、一般の子育て支援サービスを使えない、養育困難な状態にある家庭に対して、地域のボランティアを活用しながら家庭訪問等において家事支援などを行っています。今回、現況等についてご報告いただきます。

#### 報告2 「ひとり親家庭で育つ子どもへの支援—NPO等とつくる居場所づくり」

白敷宗雄さん（京都府健康福祉部家庭支援課ひとり親家庭支援担当課長）

#### 報告3 「あらかわシステムと区の取り組みの現状」

片岡孝さん（東京・荒川区総務企画部企画担当課長）

荒川区では、子どもの貧困・社会排除問題の解消を目指した「あらかわシステム」の構築等を内容とするシンクタンク（荒川区自治総合研究所）からの提言を受け、基礎自治体として、子どもの貧困問題に積極的に取り組んでおり、その経緯や現況をご報告いただきます。

### 質疑と討論

## アクセス

地下鉄「茗荷谷」駅・地下鉄「護国寺」駅から会場1号館まで、徒歩12～13分。  
(正門から共通講義棟1号館までは5分ほどかかります)

アクセスマップ <http://www.ocha.ac.jp/access/>  
土日は南門が閉まっていますので、正門からお入りください。



※この企画はソーシャル・ジャスティス基金より助成を受けています。